

「共和政ローマ」

古代ローマの初期の話は、第2章でお伝えした古代ギリシャの流れと同じで、

貴族と平民には元々、（ ）があったけど
平民が（ ）に参加するようになって（ ）を要求し、
平民が台頭。

この流れは同じ。

ここの流れを少し細かくお伝えすると

ローマは

（ ）がローマを建設するのですが、当初は（ ）に支配される民として生活。

しかし、エトルリア人の王を追い出してからは、ラテン人はエトルリア人と共にローマ社会を築く。ローマ社会は、貴族たち（ ）と最高官職である2名の執政官（ ）により貴族共和政が運営。

しかし、平民が重装歩兵として戦争に参加し始めると、平民たちは参政権を要求。

結果、

平民の権利を守る（ ）の設置。

平民のための（ ）の設置。

（ ）を制定し、貴族による法の独占を防止。

（ ）により、定員2名のコンスルのうち1人は平民から選出。

（ ）により、平民会の決議が元老院の承認なしに国の法律となった。

平民が台頭してきた最中

地中海の覇権をかけた（ ）が勃発。



この争いの結果、ローマは勝ち、（ ）を獲得。地中海の覇者となった。

しかし、長期にわたる戦争の結果、ローマの（ ）は荒廃。またシチリア島から（ ）が流入し始め、ローマの農民は大量に落ちぶれ、都市に（ ）を要求。

農民が捨てた土地は、お金持ちが買取り、戦争で獲得した奴隷達に働かせ、オリーブやブドウなどを大量に生産するようになったのです。
（これを（ ）という）

ポエニ戦争後、大きく変わったローマは（ ）と言われる混乱時代に突入し3つの内乱が発生。

- 1 （ ）と（ ）との争い。
- 2 剣奴（ ）の乱
- 3 （ ）（市民権を求める同盟市による要求戦争）

大きく混乱したローマ社会では、内乱を収拾できる強いリーダーの出現を求める動きが起き、（ ）が誕生。

（ ）は、（ ）、（ ）、（ ）の3人。この中で（ ）はガリア（フランス）に遠征するなど、好成績を獲得。しかし元老院に疎ましく思われ、暗殺。

() は、()、()、
() の3人。

この中で() は勝利し、元老院から() という称号を得る。また第一の市民() としてローマのトップにいた。

オクタヴィアヌスから() までの200年間はローマの黄金期。
(という)

五賢帝で大事なのは。

ローマの最大領域をもたらした第2代の()
ブリタニアに長城を築いた第3代の()
哲人皇帝としても知られる第5代の()

五賢帝後の() は全自由民に() を付与。

しかし3世紀中頃からは() に入り、不安定な社会に突入。
(33年間で14人も皇帝が変わった)

軍人皇帝時代を平定したのが()

彼は皇帝を神として礼拝させ、皇帝を絶対の権力者とする() を開始。その中で当時、ローマに信者を拡大していたキリスト教徒に大迫害を行なっている。

続く、() は、ディオクレティアヌス帝とは逆に() でキリスト教を公認。

(それはキリスト教徒の信者数があまりにも多く、弾圧よりも利用した方が都合が良かったから)

その後、() によってキリスト教は() 。

またコンスタンティヌス帝からテオドシウス帝までの頃に、() が起き、ローマ帝国は大混乱状態に。() は、帝国を東西に分割。
西ローマは大移動したゲルマン人の影響を受けて、崩壊。